

事務事業名		エコファーマー参画事業			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	05 豊かな市民生活を実現する産業の振興			事業期間		予算科目				
	施策名	20 産地化をめざした農林業の振興					会計	款	項	目	事業
	基本事業名	02 農業の担い手の確保					予 算 な し				
根拠法令	持続性の高い農業生産方式の導入に関する法律										
所 属	部課名	農林水産部 農林課									
	係 名	農政係	電話	27-3111	☐ 単年度のみ	☒ 単年度繰返 (開始 平成13 年度～)					
			内線	344							
					※全体計画欄の総投入量を記入						
事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)											
・堆肥による土づくりや化学肥料減量、または農薬減量の技術を用いて持続性の高い農業生産方式を行う農業者をエコファーマーとして認定する。											
・エコファーマーとは、化学肥料や農薬を使う量・回数を減らし、環境にやさしい農業を行う農業者で、県知事から認定を受ける必要がある。											
・主な業務は①エコファーマーの農業生産方式の計画申請を審査する委員会の委員として、農林課長が委員会に出席し計画を審査、②エコファーマーとして認定された農業者に対する研修会の案内である。											
・事業費はなし。											
全体計画 (※期間限定複数年度のみ)											
総投入量 (千円)	事業費	財源内訳	国庫支出金								
			都道府県支出金								
			地方債								
			その他								
			一般財源								
	事業費計 (A)	0									
	人件費	正規職員従事人数									
延べ業務時間											
人件費計 (B)		0									
トータルコスト(A)+(B)			0								

1 現状把握の部 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標	
① 手段 (主な活動)	⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)
前年度実績 (前年度に行った主な活動)	名称 単位
・エコファーマー認定委員会に出席した。	ア 審査会出席日数 回
今年度計画 (今年度に計画している主な活動)	イ 研修会出席日数 回
・前年度と同様。	ウ
② 対象 (誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標)
・エコファーマー認定申請農家	名称 単位
③ 意図 (この事業によって、対象をどう変えるのか)	カ エコファーマー認定申請農家 人
・エコファーマー認定申請農家を認定し、認定された農家の農産物の付加価値が高まり、農産物が安定して高く売れる。	キ
④ 結果 (基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)	ク
・農産物が安定して高く売れる。	⑦ 成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)
	名称 単位
	サ 市内エコファーマーの数 人
	シ
	ス

(2) 総事業費・指標等の推移			年度	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度 (実績)	
			単位							
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円						
		都道府県支出金	千 円							
		地方債	千 円							
		その他	千 円							
		一般財源	千 円							
	事業費計 (A)		千 円	0	0	0	0	0	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1	
		延べ業務時間	時 間	24	24	24	24	24	24	
		人件費計 (B)	千 円	96	96	96	96	96	96	
		トータルコスト(A)+(B)		千 円	96	96	96	96	96	96
⑤活動指標		ア	回	2	1	1	1	1	1	
		イ	回	1	1	1	1	0	0	
		ウ								
⑥対象指標		カ	人	14	2	7	2	2	0	
		キ								
		ク								
⑦成果指標		サ	人	65	63	62	54	27	13	
		シ								
		ス								

事務事業ID	0538	事務事業名	エコファーマー参画事業
--------	------	-------	-------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

・農産物の安全・安心や環境問題が重要視される社会になり、環境と調和のとれた農業生産活動を営むことを目的に、平成11年に「持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律」が制定された。

・法律に基づき県でエコファーマーの認定事業を開始したことにより、市でも参画した。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

・環境にやさしい農業や安全・安心な農産物に対する取組は、各地で重要視されるようになった。

平成22年度、エコファーマーマークの商標権を所有していたJA全中が現行マークの使用を停止する通知があり、平成23年3月31日から使用が禁止されている。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

・エコファーマーに関する認知度が低い。

2 評価の部 (SEE) *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒ [理由] ・エコファーマー認定者が作る農産物をブランド化し安定的に出荷できれば、農業経営の安定化につながる。
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒ [理由] ・エコファーマーの認定は県知事が行い、市町村も計画審査を合同でおこなわなければならないことになっている。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒ [理由] ・エコファーマーの認定計画農業者を認定し、エコファーマーの作る農産物の付加価値を高める事業であり、対象・意図は適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒ [理由] ・市は県が事務をまとめる認定委員会の構成員であり、その支援を行うことになっているため、事業を継続して行うことにより、市内におけるエコファーマーの数を増やすことができる。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒ [その内容] ・市もエコファーマー計画認定の審査委員になっていることから、市単独で事業廃止・休止はできない。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒ [理由] ・他に類似事業はない。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由] 事業費はなし。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由] ・審査会、研修会への参加にかかる人件費のみであり、削減の余地はない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒ [理由] ・事業費がないため、受益者負担もなし。

事務事業ID	0538	事務事業名	エコファーマー参画事業
--------	------	-------	-------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) ・エコファーマーに認定されてもそのメリットをいかしきれない農家が多い。 ・ブランド化するにも農産物のPR体制等を検討しなければならない。 ・エコファーマーに認定された後のビジョンを示せていない為、エコファーマー認定を希望する農家が減少している。									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) ・事業を継続していくことにより、市内のエコファーマーの数を増やす。 ・年度毎に継続してエコファーマー育成を支援していく。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上		●																				
	維持			×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 ・エコファーマーに対する認知度が低い。 ・エコファーマーとして認定を受けていない農家でも、環境にやさしい農業に取り組むことが当たり前の社会になってきている。																							

(職 名) ※原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	農林課長
-------	------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている ②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(3) 評価結果の根拠と理由 エコファーマーの作る農産物に付加価値を高める取り組みが必要である。									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																						
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) エコファーマーが作る農産物に付加価値を高めるには、時間をかけての関係機関・団体等との連携が必要なことから、現状どおり継続して事業を実施しながら、その対応について検討していく。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持		●	×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		○																					
	維持		●	×																				
	低下		×	×																				

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
